

## 「ケーブルカー遊び (3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

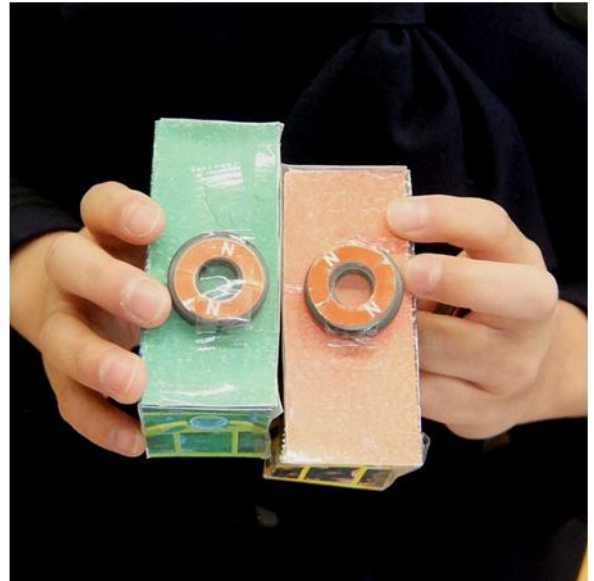
型紙から丁寧に切り取ったあとは、ケーブルカーの車両の組み立てだ。型紙は、折り線できちんと折れば、側面が平行四辺形の、ケーブルカー独特の形状になるように、設計してある。子どもたちは、算数の時間に、工作用紙で立体を作っているのだから、結構上手に組み立てていた。2年生でも簡単に作れるように、面同士の接着は、セロテープが基本である。



写真は車両を組み立てているところ。平面だった型紙から、ケーブルカー独特の車体の形ができる一瞬は、子どもたちにとっては、非常に不思議な体験だったようで、教室のあちこちから歓声があがっていた。



「先生できた！」の連発だった。嬉しくて仕方ないのだ。全員の「作品」を写真に撮っておいた。



これは、車両の底に磁石をつけたところ。子どもたちには1月に、磁石の実験セットを配ってある。その中から、好きなものを取り付けていいよ、と指示をしてある。実は、このリング磁石は磁性が複雑で、線路の上でクルクル回ってしまう。



この型紙には「のりしろ」はないのだが、自分で作った子どももいた。「いろんな磁石を入れて試したい」という理由だそう。なるほど磁石は、必ずしも車体に貼る必要はない。車両の内部に入れてもいいわけで、そのほうがスマートである。この方法は、あっという間に「クラス全域」に伝播した。かくして、「新製車両」が続々と完成した。(つづく)